

1 当該学年・学期等における探究課題 《地域理解》

2 単元名 『地域のお宝発見』（全60時間=想定される実施時期：4月～7月 11月～2月）

3 単元のねらい

ふるさと県主や井原市の施設や行事、産業、地域の人々などについて調べたり、体験活動をしたりすることを通して、地域に興味をもち、そこで生活している人々の思いを知ることで、地域のよさに気付き、ふるさと県主や井原市を大切にしていこうとする気持ちを育む

4 主な活動とふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと（こと）」との出逢い・関わりの仕掛け、引き出したい子どもの姿

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		<p>○学区探検をきっかけにふるさと県主のよさを振り返り、自分たちが知っているふるさと県主について話し合うことで、県主地域に残る史跡や施設、行事、それを支える地域の人などについて関心をもつ。 ●県主のよさを振り返り、自分たちが知っている井原市について話し合うことで井原市のよさについて関心を広げる ○井原市の産業について調べたことから、他者に伝えたい井原について考える。</p>	<p>○興味のある場所を見学したり、地域の人に話を聞いたりすることで自分の感じたお宝を集めめる。 ●インターネットで調べたり、働いている人々にインタビューしたりすることで、井原の代表的な産業デニムのよさについての情報を集める。 ○自分が考えられる井原市内のおすすめを考え、インターネットで調べたり、働いている人々にインタビューをしたりする。</p>	<p>○他者に伝えたい情報を整理し、伝える方法を考える。 ○集めた情報をもとに、「行ってみたい」と思えるようなお宝を整理し、伝える方法を考える。 ○いろいろな視点から紹介したいお宝を検討する。</p>	<p>○報告会を開き、集めた情報を共有する。 ●集めた情報を共有する。 ○お宝を紹介する。 ○これまでの学習を振り返り、今後の目標をもつ。</p>
仕掛け・工夫	もの	県主地域に残る史跡や施設、行事、それを支える地域の人など	千義神社 青龍神社 ほっとカフェ 金剛福寺 鳥羽踊り けやきの森 ジーンズソムリエ デニムストア 美星天文台 井原鼓 中世夢が原 井原駅 青空市場 田中美術館 リフレッシュ公園	千義神社 青龍神社 ほっとカフェ 金剛福寺 鳥羽踊り けやきの森 ジーンズソムリエ デニムストア 美星天文台 井原鼓 中世夢が原 井原駅 青空市場 田中美術館 リフレッシュ公園	○○○○
	ひと	○○○○	鳥羽踊り保存会 宮司 ボランティア 社会福祉協議会 井原LOVERS ●集めた情報を伝え、知りたい情報についてインタビューや地域行事の体験をする。	○○○○	鳥羽踊り保存会 宮司 ボランティア 社会福祉協議会 井原LOVERS ●お宝パンフレットにのせる内容を地域の方と協議する
	しごと（こと）	○○○○	日本綿布	○○○○	○○○○
引き出したい姿	いばら愛 (郷土愛と当事者性)	○○○○	地域の人や家族、友達と進んで関わり、自他の違いを認め、活動したり話し合ったりすることができる	○○○○	できるようになったことやその過程を振り返り、自分の良さや成長に気付くことができる。
	やり抜く力 (忍耐と向上心)	体験やインタビュー、図書などの情報をもとに、調べたいことを見付け、簡単な計画を立てることができる。	体験やインタビュー、図書などの様々な方法で必要な情報を集め、分かったことを整理・分析することができる。	○○○○	○○○○
	まさ込む力 (発信と協働)	○○○	○○○○	体験したり考えたりしたこととともに、自分にできることを考え、行動することができる。	整理・分析した情報をもとに、自分の考えをまとめ伝えることができる。
アウトプットの工夫		<ul style="list-style-type: none"> 協同する活動が必然的に生まれる学習活動の展開 言語活動による体験の意味の自覚化 地域の人材の積極的な活用（共有・助言） 	<p>○探求的な学習過程が発展的に繰り返される活動 課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ表現</p>		

5 他教科・領域、学校行事等との関連

国語科「はんて意見をまとめよう」「これがわたしのお気に入り」「わたしたちの学校じまん」「クラスみんなで決めるには」「調べて話そう生活調査隊」
 総合的な学習の時間 オペレッタ「大谷山開墾」
 社会科「県の人々のくらし」

6 他学年、他校（園）種、外部団体との連携・接続・交流

他校とのオンライン交流学習

県主小学校 3・4年 単元名『地域のお宝発見』の流れ（探究過程）と活動の実際 担当【川上 竜平】

◆単元のねらい 「ふるさと県主や井原市の施設や行事、産業、地域の人々などについて調べたり、体験活動をしたりすることを通して、地域に興味をもち、そこで生活している人々の思いを知ることで、地域のよさに気付き、ふるさと県主や井原市を大切にしていこうとする気持ちを育む



県主の魅力を考えたときに、住んでいるのに分からないことが多いことに気づき、2つのチームの作って調査することにした。



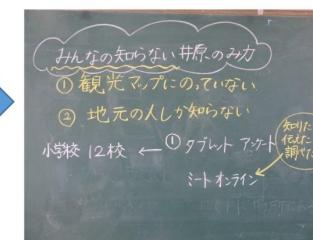
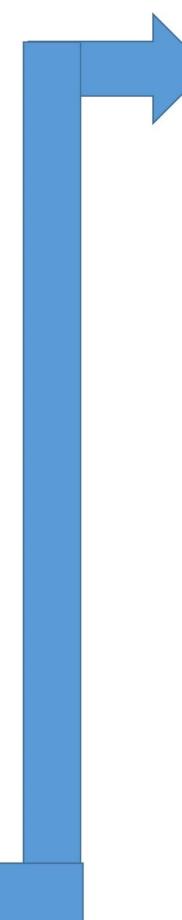
3世代からアンケートをとったり、県主はかせにインタビューしたりしながら、情報収集した。その結果たくさんの新たな発見があった。



情報を分類分けしたり、結果をグラフにまとめたりしながら自分たちが調査したことをスライドでまとめた。



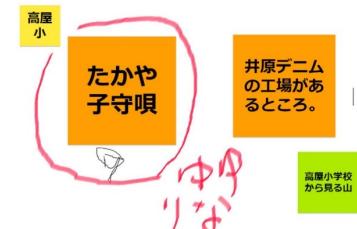
2年生と校長先生に来てもらい、スライド等の発表した。また、クラスルームに動画を投稿したり、紙媒体で公民館に置かせてもらいう地域の方にも見てもらうようにした。



これまでの学習を生かして、住んでいる人しか知らないことがあることに気づき、みんなの知らない井原の魅力を調査することにした。



市内の小学校3～6年生にアンケートの協力をお願いして、地元の人しか知らない魅力を調査した。アンケート的回答は614人だったが、「知らない」「わからない」という回答も多かった。



そんな井原市の子どもたちに、もっと井原の魅力を知ってもらいたいという思いで、「井原マル秘手帳」を作成中。

◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

○タブレットを活用しながら、県主の魅力をまとめたり、交流することができにくい他校ともつながることができたところがよかったです。子どもたちが自分たちでタブレットを活用しようとする態度が見られて成長を感じた。

△これまで3年生で「県主の魅力」4年生で「井原の魅力」を調査する流れだったが、今年は複式になったので1学期に県主の魅力、2・3学期に井原の魅力としたが、発達段階に合わせた課題の設定が必要だと感じた。

☆来年度は、福祉の学習にシフトするため、活動計画や内容を1から考える必要がある。その記録を今後に生かしたい。